

「また」「または」について

「また」「または」は、「又」「亦」「復」などの漢字が当てはまり、下記のような使い方がある。

- (1) 「A、B、C、またD」の形で「と」「および」の意味で使われる。「並びに」「それから」とも言い換えることができる場合も多い。

例 萩の花 尾花葛花 などでしこが花 をみなへし また藤袴 朝顔が花。

(秋の七草の覚え方)

- (2) 「もう一度」「再び」の意味で使われる。「～もまた」の形になることも多い。

例 また来週会いましょう。

明日また来ます。

我がチームは前回の大会では優勝だった。今回もまた優勝をめざそう。

- (2) 「～。また、～。」の形で、「そして」「更に」の意味で使われる。

例 日本語には外来語が多い。たばこ、パンなどはポルトガル語、ビール、ガラスなどはオランダ語から来ている。また、ガーゼ、ノイローゼなどの医学用語はドイツ語から来ている。

- (4) 「AまたはB」の形で「A or B」の意味で使われる。「あるいは（或は）」、「もしくは（若しくは）」で言い換えることができる。

例 解答用紙には、鉛筆またはシャープペンシルで記入すること。

参考 手元の辞書では下記のようにになっている

1. [副詞]

- (1) 前にあったことがもう一度繰り返されるさま。ふたたび。「あしたまた来ます」「いつかまたお話を聞かせてください」「また失敗した」
- (2) ほかのものと同じ状態にあるさま。ひとしく。同じく。「息子もまた父親と同様、学者だ」
- (3) そのものと別であるさま。「忙しいからまたにしてくれ」「またの機会」
- (4) さらに別の事柄がつけ加わるさま。その上に。「秋はまた収穫の季節でもある」
- (5) 驚きや疑問の気持ちを表す。まったく。それにしても。「またえらい失敗をしたものだ」
「またなんときれいな花だ」

2. [接続詞]

- (1) 事柄を並列・列挙するとき用いる。ならびに。「彼は、英語もドイツ語も、またフランス語も話せる」
- (2) さらに別の事柄をつけ加えるときに用いる。その上。「おもしろいだけでなく、また役に立つ」「医者であり、また文学者でもある」
- (3) 並列・列挙した事柄のうち、どれを選択してもいいときに用いる。あるいは。または。「行ってもいいし、また行かなくてもいい」

参考 「あるいは」「それとも」

- (1) 「明日は雨または雪になるでしょう」のような文では「または」「あるいは」両方同じ意味で使える。
- (2) 「会議は5時終了の予定だが、あるいは30分ほど延びるかもしれない」のように「もしかすると」の意味の時には「または」は使えない。
- (3) 「進学するか、それとも就職するかまだ決めていない」のように疑問の形の文をつなぐときには「あるいは」も「または」も使えるが、話し言葉では「それとも」が多く使われる。